

総務経済常任委員会会議記録（概要）

令和2年9月4日（金）

開 会（午前9時0分）

【議 事】

○議案第108号「所沢市行政組織条例の一部を改正する条例制定について」

【補足説明】 な し

【質 疑】

城下委員

「国際交流に関すること。」が経営企画部の所管事務となるが、この理由はいかがか。どのような議論があったか。

市川経営企画  
担当参事

昨今、インバウンドの関係やオリンピック・パラリンピックのレガシー創出で、国際交流的な活動が活発になってきたことと外国籍市民が増えていることを受け、今後国際交流の部門をさらに充実させていく必要が生じることを想定して、経営企画部門で総括的に管理する狙いです。

城下委員

外国籍の方の環境整備について、例えば教育委員会など全庁的な支援になると思うが、外国籍の方への支援の協議はどのようなであって、どのような体制で臨んでいるか。

市川経営企画

外国籍市民の暮らしやすさや学校現場での外国籍の子供の対応等につ

担当参事 いて、それぞれの部門での細やかな対応は必要なので、所管部門で検討するように、経営企画の部分で国際交流的なものを総括的に対応しますが、全庁的に浸透させて、各部門での多文化共生や配慮を充実させていく狙いです。

城下委員 教育委員会や市民部でこれまでに行っている支援はこれまでどおり継続して、国際交流の総括的な部分を経営企画部が中心的にやっていくということか。

市川経営企画  
担当参事 ご指摘のとおり、各部門で細やかな対応については引き続き業務を行うものです。

城下委員 秘書監ができる。危機管理監は議場に出席しているが、秘書監の位置づけは同等か。議場に出席するのか。

市川経営企画  
担当参事 これまでも秘書担当理事という秘書室所管の部長職があり、議会での出席の要請があれば出席するようになると考えています。

中村委員 ポストができたことでコストが増えるという認識ではないが、コストの変化はどのようなか。

市川経営企画 今回の組織改編では危機管理室はもともと危機管理課、防犯交通安全課

担当参事 はもともと交通安全課です。技術管理室ももともと工事検査室で、交通政策室も企画総務課内にありましたので、所属や室の数が増えることではないのですが、編成が変わったことによって、事業等を充実させていく面で費用が増える可能性があると考えています。

中村委員 職員に支払う給与的にはどうなのか。

市川経営企画 今回の改編を理由に増員等が行われるものではないので、定員管理はまた別途検討することになりますが、これを理由に給与等や人数が増えることは想定していません。

中村委員 基本的にはより働きやすくなる意味だと思うので、良い、悪いの問題ではないと思うが、街づくり計画部は部長がいて、各課の総合調整と意思決定を行うイメージができる。総務部的なところは、どうしても組織なので絶対に必要になる。総務部の存在も分かるのだが、経営企画部や市民部は各課や各室同士の総合調整や部単位でまとまっている意義がここまできると見えてなくなっていて、どこにも属さないものやそのような意味での総務的なものの存在は分かるのだが、室や課同士のコミュニケーションと総合調整の意味は分かるが、もはや市民部はずっとそうなのだがお互いの課がクロスオーバーしているイメージが無くて、そこに部長が要るのなら部長の数を変えて働き方を変えるやり方をとらないのかといつも思っ

ていて、経営企画部もそうで、全庁的という話をしながらも各課や室が総合的に調整が必要なことがあって同じ部内にいるイメージが湧かない。このことについてはいつもどのような議論があって行政組織を変えているのか。うがった見方をすると部の数を一定にとらえているのではないかと  
いう印象がある。本来、働き方の観点から見れば部の数を変えてもいい。当然コストの制約はあるが、そのような議論がないまま、所与のままに、  
その中でなんとかやっているイメージなので、このことについて答弁願いたい。

市川経営企画  
担当参事

部の数が変わる改編ではありません。組織のあり方で言うと、総合計画  
を実現するために一番効率が良い組織体を念頭に置いて、編成を考えてい  
ます。根底から一度更地にして、そこからくみ上げるようには、今回の改  
編は持ってこられなかったことがあります。そうした改編が必要である  
かどうかは事務改善委員会や政策会議で議論しています。今後、部の構成  
の変更が必要との判断になったときには、部の数自体も見直すことになる  
と思います。

中村委員

課が同じ部にいることは、どのような意味があるのか。

市川経営企画  
担当参事

部長という組織のトップマネジメントを行う存在によって、統括され  
て、その方針に基づいて、各所属が動いていくので、一つのくくりの中に

いることは並んでいる課が同じ方向を向きながら進むことができる意味があります。

石本委員

テレワークを進めようとしている。そのようなときに、この部の編成で各部のテレワークが最低でもどれぐらい増えるといったことの見込みがあつてやっているのか。あえてこの時期にやるのではなくて、コロナ禍だったから半年ぐらい様子を見て、行政組織の構成をやってもよかった。部の量も含めて、そのような議論はあつたか。これからテレワークを進めていったら、支障をきたしたから、1年後や1年半後にまた組織改編があるといったことでは長続きしない。そのような議論はあつたか。

市川経営企画

今回の組織改編はコロナが起きてから検討を始めたものではないです。

担当参事

1年半や2年ぐらいの期間を持ちながら、どういった形が良いか検討しながら部同士の調整を進めながらやってきました。コロナを受けての働き方の視点での改編の必要性については、今後また検討していく必要があると思いますが、働き方の関連ですと、IT部門と経営企画部門と職員課などで今まさに検討していて、このハード的なものが整うことによって、運用をどのようにしていくかはこれから検討することになります。

城下委員

コロナ前とコロナ後では全く社会情勢が違う。3密回避、リモートワークがある中で、リモートワークできなかった部署もある。市民課や清掃関

係もそうであるし、6月定例会でもコロナ禍の課題の総括をやると副市長が言っていた。まだ収束していないので、すべてを総括はできないと思う。現段階で取り組める部分は今回の機構改革に盛り込まれていると思っていたが、今の話を聞くととりあえずハード面を整備して、ソフト面を含めてのことはこれから対応するとのことなので、その今後の対応については時期を決めて検討して、来年の4月から機構が変わるのだから、できるところはやっていく、そこまでにできないものは次年度に引き続き検討するなどといったことが示されないと不十分を感じるがいかがか。

市川 経営企画  
担当参事

今回の組織改編はコロナ前からの検討でしたが、検討を進める中に危機管理課があり、現在のコロナの対策については緊急事態宣言が発せられたときに対策本部会議など危機管理課が中心になって行ってきたので、その状況などを鑑みた上で、危機管理室のあり方はどのようにするべきかといった議論をした上での今回の改編に踏み切りました。コロナの状況を全く無視して今回出したかということ、そのようなわけではありませんが、現在の段階では完全に総括しきれしていないので、今後その対応が必要な部分については、引き続き組織改編の検討を続けていくことになると考えています。

西沢委員

各論はこれからかもしれないが、交通安全に関する事で交通政策は街づくりと一体となるような計画が必要になるので、今の体制はどうか

ということは今までの一般質問でもあった。そのようなことで今回このような形になったと考えている。道路維持課が担当しているようなミラーの設置や路面標示といった交通安全に関することは今回の機構改革で市民部に所管が移動する可能性はあるか。

市川経営企画  
担当参事  
今回の改正は、そのようないわゆる交通安全施設について建設部からの移管は特に想定していません。

西沢委員  
今まで危機管理課が担当していた空き家に関する事務はどのようになるか。

市川経営企画  
担当参事  
これまで防犯対策室の業務として行ってきましたので、今回防犯交通安全課に防犯対策室の業務を編入しますので市民部の所管になります。

石本委員  
空き家のことが防犯に入ったことはがっかりした。全国的な潮流は空き家を担当する部署で1番多いのは街づくり系だ。次が建設系だ。次がコミュニティや所沢市で言う市民部で、所沢市のように危機管理部門が所管することも一部あるが、危機管理や防犯は空き家のことをネガティブにとらえている。これからの時代の空き家は、市営住宅を建て替えられないから空き家を充当していくなど、空き家をポジティブに受け止めてまちづくりしていく流れの中で、また防犯に入った。空き家の対策はどのように議論

されたのか。

市川経営企画  
担当参事

空き家については、現在所沢市では地域の安全を確保する視点での担当  
となっています。もともと防犯対策室での業務だったので、今回の移管で  
は業務を持って行くイメージですが、今後、街の機能を考えていく上で空  
き家活用が必要な場面があると思うので、所管のあり方、業務の所管の組  
み換えなども引き続き検討していきたいと考えています。

石本委員

空き家の対策は非常に手間がかかるから、引き受け手がなくて、今ま  
で危機管理課に入っていたイメージを私は持っている。今後また議論して  
いくのか。空き家という問題を所沢市のまちづくりのどのような位置づけ  
にして、今回ここに入ったのか。

市川経営企画  
担当参事

空き家が放置されて、治安が悪化する問題がまず一つあり、また、ドー  
ナツ化による地域の衰退につながる問題などの側面がいくつかあるので、  
課題を解決していくためにどこに置けば最適かということは決めにくい  
ところですが。これまでの空き家の考え方は空いていて、荒れ放題になって  
いくことをどのように対策していくか、いわゆるネガティブな考え方でし  
た。個人が持っている資産ですが、市の中にある資産と考え、有効に活用  
していく切り口もあるので、どのような場面でどのような形で活用してい  
くのか、空き家のワンストップの事業もやりながら、民間の中で活用して

いただいている情報を行政として有効な活用方法がないか、検討しており、それが熟してくれば適切に配置します。

城下委員

石本委員の質疑はまさにそうだと思う。例えば委員会でも、空き家対策で視察に行ったりした。ポジティブに受け止めるということ、今は空き家や古民家を活用して若い人達がそこに移り住む、やっぱり若い人を呼び込む施策、まちづくりの施策の一つとしてやっている。そこに高齢者がいれば高齢者との異世代交流や見守りにもつながるということをいろんな議員が提案している。それが何年たっても防犯の位置づけの部分でしか捉えられていないということが、そこについてはせっかく今回機構改革をするので逆にそれを前に進めるような議論があってもいい時期で、遅いくらいではないかと思う。参事もそのように答弁されているが、この機構改革にはその辺の位置づけもしっかりやっていくという議論はまだまだ不十分なのか、これからもしかしたらやるつもりでいるのか。防犯だけでなくまちづくりの一つ、人を呼び込む施策の一つになる、特に若い世代も含めて。その辺のところはいかがか。

市川経営企画  
担当参事

現在は空き家を適正に管理する視点で防犯対策室が所管しているところですが、例えば若い人たちへの呼び込みや若いアーティストたちがアトリエとして活用するなど、有効な活用の仕方はそれぞれの所管で検討した時に空き家を物件として活用しようという情報は、空き家ワンストップか

らも提供いただけるという協定があります。所沢のような立地ですと、空き家が出て流通してしまう部分があり、ただ単に浮いたままで残っている物件はあまり出てこないことが確かにあります。行政として活用したい物件がないだろうか、という情報を投げかけた時に提供いただける状況ではあるので、今後具体的に空き家を活用した事業などを展開する際にはそういった活用の仕方があると思います。

西沢委員

空き家の活用をどうするのかという部分は、例えば街づくり計画部には「住宅に関すること。」という所掌事務があるので、その中でも考えられると思うが、それ以上に空き家の問題に対応する時に、今まで防犯対策室の限界を感じていたのは、色々なセクションにわたる課題が一軒の空き家の中にある。防犯の問題もあれば環境の問題、相続の問題もあり、いろいろな課題がある。それを一元的にコーディネートして対応を立てていくという時に、例えば市民部の中にそのセクションがあったらコーディネートがなかなか難しいのではないかと。そういう意味では市長直属の危機管理室が出来たわけで、そういうセクションの方が総合的な対策がとれるのではないかと考えていたが、その辺の検討というのを今後行い、来年の4月以降に所掌事務の関係が移動していくという可能性はあるのか。

市川経営企画  
担当参事

危機管理室に関しましては、まず有事の緊急対応に特化をしようというところがあります。防犯対策室、いわゆる変わってからの防犯交通安

全課については、平時から地域の安全といった視点での所管ということで考えており、そういった面から空き家対策は、地域の安全の視点からの施策で所沢市はやっているので防犯交通安全課に配置しておくことが適切かと考えております。

ただ、いわゆる空き家などを有効に活用していくという視点での検討は、この組織体だけのくくりだけでなく検討できる課題かと思いますので組織として置くべきなのかどうかも含めて議論してまいりたいと考えております。

石本委員

視点を变えて、コスト面のほうで伺いたい。部長、次長、課長、主幹のポストは今いくつあり、今後いくつになるのか教えていただきたい。

市川経営企画  
担当参事

行政職について、理事、参事、主幹を含めた数字になりますが、部長職は20人、次長職は42人、課長職、これは主幹も含めて112人です。また、この改編による増はありません。

石本委員

ヒアリングの時に課長の数は変わらないと聞いたが、例えばそれは表面上の課長というポストの数は変わらないかもしれないが給与的な面でいうと課長級になるとか、そういうのもお示しいただきたい。

市川経営企画

職域や給与的な面においても、改編による変更はありません。

担当参事

大館委員

危機管理室をつくることによって充実をさせるためとのことだったが、どの辺を充実させるということか。

市川経営企画

担当参事

危機管理室を市長の直轄にすることにより、迅速な指示命令系統を明確にすることと、全庁への指示への明確さが評価されるものと考えております。

大館委員

防犯に関することは市民部のほうへ抜けるわけだが、その分かなり充実出来ると思うが、人数は多少減るということか。

市川経営企画

担当参事

防犯の部門を請け負っていた職員については、市民部の方に移りますので、これまで危機管理課の防災や消防の部門を請け負っていた職員の数については、少なくとも確保していこうと考えております。

石本委員

危機管理監は危機管理室長になるのか。

市川経営企画

担当参事

現在、危機管理監と危機管理課長は別でいる形で、この2つは同一の職ではありません。いわゆる危機管理課を所管する部長職が危機管理監ですので、危機管理室になった場合には、危機管理室長と危機管理監はそれぞれ

	れ別の職として存在することになります。
石本委員	管理監と部長の呼び名で意味が変わるのか。
市川経営企画 担当参事	所沢市の通例的な設定の仕方になるかと思います。複数の課を所管する部長級を部長、単独、いわゆる下に課が1つしかない形のものには監や、担当理事という名称をつけてきたところでは。
石原委員	この際、委員として質疑したいので、暫時、副委員長と交代します。
石本副委員長	それでは、暫時、委員長の職務を行います。質疑を続けます。
石原委員	危機管理監が秘書室の中に入るとのことか。
市川経営企画 担当参事	危機管理監は秘書室とは別です。秘書室と危機管理室は別の組織として存在しますので、現在の考え方としては部屋の場所も変更する予定はありません。
石本副委員長	それでは委員長と交代します。
城下委員	危機管理課の業務が、例えば防犯については市民部にいくということ

で、一部そういった違う部に行く業務もあるが、一方ではコロナ禍と災害が大変大規模化して増えているということでは、3密回避の面でも避難所の配置については職員2人だったのがそれでは足りないとか、これから増やす方向で全庁的に考えているという話もある。そういう意味では、業務が減るというふうには受け止めていない。逆に、業務は今後増えていくのではないかと思うがその辺の認識と、全庁的な対応といっても職員は限られているので、どこまでそれに対応できるのかどうなのか、その辺どのような議論をされたのか。

市川経営企画  
担当参事

業務の増減につきましては、昨今、風水害の被害がだいぶ増えてきており、そういったところからも危機管理室の機能強化ということが課題として考えられてきたところですが、改編は4月以降ということですが、実際には今年度の時点で、全庁職員の参集の体制などの見直しを抜本的に行っているところですが、全庁への命令系統という意味での強化がこれにより図られるものと考えており、今後危機管理室において、更に人員が必要である状況が見えてくれば定員管理の中で対応していくものと考えております。

中村委員

総合計画実現のための組織だという話があったが、所沢市の総合計画は7章ある。その7つの章を担当する部長がいて、その下に担当の課があり、リーディングプロジェクトを入れたら8部づくり、プラス政策策定、企画、立案部門を当然作り、進捗状況を管理して8個、プラス下支えする総務部

みたいな部分、そういうものではだめなのか。総合計画と組織というものが別で動いている印象がある。それが一番分かりやすく責任の所在がはっきりするのかなと思う。今までの経緯や流れがあるとは思いますがそういう話を出さないのか。

市川経営企画  
担当参事

総合計画と組織の柱立ての関連性というのは当然意識した形で考えております。第6次総合計画を策定したところですが、例えば第1章は市民部と福祉部の関連ということで、子ども部門や健康部門の柱立てなども整理してきたところです。組織と総合計画の柱の考え方がだいぶ近づいてきた印象は感じています。それを意識した上でこういった組織の考え方も整理していくことが基本的な考え方です。

中村委員

室の存在というのはすごく分かりやすく、市が解決したい問題とか推進したい施策があつて、その施策とともに現れてその施策が実現された時に室というのは結構消えていく。これはやっぱりプロジェクトに対して組織としての人材をはりつけてその成果を出した時に消えていくみたいな、これってすごく意味があることだと思っていて、室がたくさん増えていくってことは人事的なところは分からないが施策の遂行能力と市の力をかけていく部分というのが非常に分かりやすい。今回室は増えるのか分からないが、今後の室の作り方についてこの辺はどうか。

市川経営企画

今の室の話でいきますと、いわゆる課内室といった形で臨時的に設置を

担当参事

して最新の課題に対していくというものかと思いますが、確かにこの室という形でその時点で注力しなくてはいけない課題には、今後もそのように対応していきたいと考えております。

室の設置をしてから5年が経過しますと、一度改廃を検討するという形をとっており、それよりも早く解体する場合がありますが、常に最新の状況をみながら室の設置、廃止を検討していきたいと考えております。

石本委員

交通政策室が経営企画部から街づくり計画部に移る時、人の異動が必然的に起こるが、その際各部長の意向は働くのか。意見を聞くとかもなく職員課が日頃のルーチンのような感じで人事異動をかけていくのか、その辺はどうか。

市川経営企画  
担当参事

これまでの改編の時も、そういった形で進めてきています。当然人事的な異動もありますので、そういったところでの不具合がないのか、ということは個々にヒアリングをしながら、またそういった状況については人事部門と共有しながら配慮をもって進めるような形で行っているところで

石本委員

人事配置の時は、上司の部長の意向は聞かれるのか。こういう人は出たくないとか、こういう人が欲しいとか。行政機構の変化というのは、それぞれの各部の力を今までよりもアップさせていくというのも狙いであ

と思う。そういう面でいくと人事配置とかどういう事が行われるのか伺いたい。

川上経営企画  
部長

先ほども参事が申しあげましたとおり、ヒアリング等がありますので、そういったところで意向についてはある程度伝えることはできます。ただ、お互いのことがありますので、そういうこともわかり得るのがヒアリングなので全てかなうという訳ではありません。

青木委員

今回の再編については大変いいのかなと思っている。今まで危機管理課というのは人数の割に仕事量がすごく多かったかな、というイメージがあった。危機管理課の仕事がいくつか他の課に行くことに対してはいいと思う。例えば防犯交通安全課については、防犯も交通安全も警察との連携が大事だと思う。先ほどから出てきた空き家の問題も今、ここで我々が発言したことに対し、4月1日までの間に色々議論を重ねていただいて我々の声を反映してもらえるのかどうか伺いたい。また、不具合があった時には改編していくのか、その辺を確認の意味で伺う。

市川経営企画  
担当参事

今回の行政機構につきましては、部が所管する業務を移管するような形での改編になりますので、例えばこの後運用していく中で、部内での課の編成を変更していった方がよいのではないかと、などの課題が生じてきた時には、当然改編もまた引き続き行っていくことになるかと思えます。業務

の所管なり課の編成なりなどにつきましては、引き続き検討していく課題  
もありますのでこれですべてが終了したわけではありません。

**【質疑終結】**

**【意見】** な し

**【採決】**

議案第108号については、全会一致、原案のとおり可決すべきものと  
決する。

○議案第110号「所沢市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条

例の一部を改正する条例制定について」

【補足説明】 な し

【質 疑】 な し

【意 見】 な し

【採 決】

議案第110号については、全会一致、原案のとおり可決すべきものと決する。

○閉会中の継続審査申出の件について（特定事件）

閉会中の継続審査申出の件については、別紙の内容で申出を行うことと  
決定した。

散 会（午前9時50分）

## 特定事件 常任委員会閉会中継続審査申出表

令和2年第3回（9月）定例会

### 総務経済常任委員会

- 1 国際社会（平和推進事業）について
- 2 人権尊重社会について
- 3 男女共同参画社会について
- 4 交通（交通政策）について
- 5 学校教育（私立学校）について
- 6 情報の共有と市民参加について（広報・市民参加）
- 7 行政経営について
- 8 危機管理・防災について
- 9 防犯について
- 10 財政運営について
- 11 農業・商業・工業について
- 12 観光について
- 13 労働・雇用環境について